

第 1 回 2023 年技能五輪国際大会招致委員会議事録

○日時 平成 30 年 4 月 18 日（水）17:20～

○場所 厚生労働省 講堂(低層棟 2 階)

○議題

- (1) 2023 年技能五輪国際大会招致委員会設置要綱について
- (2) 委員長の選出並びに委員長代行及び副委員長の指名について
- (3) 大会招致部会・機運醸成部会・選手強化部会の設置について
- (4) 招致に向けた取組（案）について
- (5) 委員からのご発言

○議事

○事務局 定刻になりましたので、ただいまから 2023 年技能五輪国際大会招致委員会を開催します。私は、事務局の中央職業能力開発協会の常盤と申します。よろしくお願ひします。委員長が決まるまで、進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願ひします。

それでは、本日の招致委員会開催に当たり、加藤勝信厚生労働大臣からご挨拶をいただきます。加藤大臣、よろしくお願ひします。

○加藤大臣 皆さんこんにちは。ご紹介賜りました厚生労働大臣を務めさせていただきます。きょうは、大変お忙しい中、大村愛知県知事をはじめ、委員の皆さん方にはご出席を賜り、第 1 回目の 2023 年技能五輪国際大会招致委員会を開催させていただきましたことに、心から感謝を申し上げます。

本委員会は、2023 年の技能五輪国際大会の日本・愛知県への招致に向けて、オールジャパンの体制で招致活動やそこに向けての機運の情勢、これに取り組むためのまさに司令塔、コントロールタワーとして設置をするものであります。

技能五輪国際大会は、原則 22 歳以下の青年技能者を対象とした唯一の世界レベルの技能競技大会であり、参加国・地域の職業訓練の振興と技能水準の向上などを目的に開催をされております。

現在、わが国における技能・技術分野を取り巻く環境は、少子高齢化に加えて、経済のグローバル化による国際競争の激化、また、ロボット、IoT、人工知能などの技術革新など大変大きな変化に直面をしております。わが国が今後も成長を続けていくためには、生産性革命、人づくり革命が重要であり、そして生産性の向上、人材の投資

がますます重要になっております。

こうした中、国際大会の開催は、国内の人材に対する投資の促進、技能への関心を高めていくこと、これにもつながるものでありますし、労働生産性の向上や技能を支える人材の育成・確保に向けた取り組みを進める絶好の機会になると考えております。

一方、招致を念頭に、わが国の選手力を向上させることも大変重要だと思います。近年、特に中国、ブラジル、ロシアなどの新興国の台頭が顕著であり、日本がこれまで強みとしてまいりましたものづくり関係職種を含め、わが国のメダル獲得数が過去に比べて減少しているというのが実態でもございます。

このため、世界レベルの高度技能者を集中的に育成していくとの観点から、本委員会のご意見なども伺いをしながら、国において選手強化のための指針を策定していきたいと考えております。

また、各技能職種の業界団体においては、当該指針を踏まえつつ、選手強化策を検討いただきたいと考えており、各選手強化策に対しては、2019年度から国において重点的な支援を実施することができるよう、併せて取り組んでいきたいと思っております。

今回、招致に立候補するとの決定に至りましたのは、大村愛知県知事のご発案を受けたものでございます。ご承知のように、愛知県は古くからものづくり産業が発展し、日本の製造業を牽引しているものづくり産業の中心地でもあります。技能五輪全国大会では、13年連続の最優秀選手団賞を受賞するなど、技能尊重機運が非常に高い地域でもあるわけであります。厚生労働省としては、愛知県において国際大会を市開催することにより、日本の高い技能・技術を世界へ発信することもできると考えております。

大村知事におかれましては、今後も、強いリーダーシップをもって、招致を強力に推進していくために、引き続きのご尽力、ご協力を賜りたいと思っております。

招致国が決まるのは、2019年の8月であります。競合する国としては、スイス、フランスの名前も聞こえてきております。大変厳しい戦いになることが予想されます。戦いを勝ち抜くためにも、官民含め、まさにオールジャパンの体制で取り組んでいくことが大事であります。

本日お集まりの委員の皆さんにおかれましては、招致に向けた各国への働き掛け、国内の機運情勢に向けた積極的な情報発信など、ぜひともお力添えを賜りますようお願いを申し上げます。私からの冒頭のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○事務局 加藤大臣、ありがとうございました。加藤大臣は、ご公務のためここでご退席されます。

○事務局 次に、お手元にお配りしております本日の資料のご確認をさせていただきます。クリップ留めしてありますので、適宜お外してください。

まず、議事次第と、脇に座席表が置いてございます。順に、資料 1、2023 年技能五輪国際大会招致委員会設置要綱（案）、資料 2、2023 年技能五輪国際大会招致委員会委員名簿（案）、資料 3、2023 年技能五輪国際大会招致委員会の構成について（案）、資料 4、2023 年技能五輪国際大会の日本・愛知への招致に向けた取組（案）、資料 5、小澤委員提出資料、資料 6、寺島委員提出資料、資料 7、福井委員提出資料、このほか技能五輪国際大会招致に係る PR 資料 3 種類を配布させていただいております。過不足ございませんでしょうか。

本日の出席者紹介につきましては、時間の都合上、誠に失礼ながら、配布の座席表にて代えさせていただきます。

なお、本日、株式会社ハースト婦人画報社エル・デコ編集部ブランドディレクターの木田委員、日本労働組合総連合会愛知県連合会会長の佐々木委員、一般財団法人日本総合研究所会長の寺島委員は所用のためご欠席です。

次に、日本商工会議所専務理事の石田委員におかれては小林様が代理、一般社団法人中部経済連合会会長の豊田委員におかれては小川様が代理、名古屋市副市長の堀場委員におかれては中田様が代理にて出席されております。

また、経済同友会の横尾委員は、所用のため途中退席されます。

それでは、議事に入らせていただきますが、1 点ご案内させていただきます。アラーム付きの時計、携帯電話等については、音を出さないようご対応お願いします。また、委員会開催中のフラッシュ撮影はお控えください。円滑な議事進行のためご協力をお願いします。

まず、資料 1、本委員会の設置要綱についてお諮りさせていただきます。事務局から説明します。

○事務局 事務局の中央職業能力開発協会山田と申します。着座にて失礼致します。

資料 1 をご覧ください。

第 1 条は、設置目的です。2023 年国際大会の日本・愛知県への招致に向けて、オールジャパン体制による各種取組を実施することを目的としております。

第 2 条は、審議事項です。第 1 に 2023 年技能五輪国際大会の招致に関すること、第 2 に国内の招致機運、技能尊重機運の醸成に関すること、第 3 に技能五輪国際大会の出場する選手等の強化策に関すること、第 4 にその他必要な事項に関すること、としております。

第 3 条は、組織です。委員の役員は、委員長 1 名、委員長代行 1 名、副委員長 4 名としております。委員長は委員の互選により選出、委員長代行および副委員長は委員長が指名する者をもって充てること、としております。

第 4 条、第 5 条は、記載のとおりでございます。

第 6 条は、事務局です。厚生労働省の委託事業受託者として、中央職業能力開発協会に事務局を置くこととしております。

第7条は、部会です。第1条の目的達成のために、必要な事項について検討を行うため、大会招致部会、機運醸成部会、選手強化部会の3つの部会を置くこととしております。部会には部会長および副部会長を置き、委員長が指名することとしております。

第8条、会議の公開について、委員会は原則公開としていますが、個別の事情に応じて、会議又は資料を非公開とするか否かの判断を委員長に一任することとしております。

第9条は、このほか必要な事項は委員長が定めることとしております。以上でございます。

○事務局 何か質問はございますでしょうか。ございましたら、自席のマイクのスイッチをオンにした上でご発言をお願いします。

それでは、お諮り致します。

2023年技能五輪国際大会招致委員会設置要綱にご異議ございませんか。

○事務局 ありがとうございます。それでは、本設置要綱に基づき議事を進めさせていただきます。

まず、委員長の選出についてです。設置要綱第3条第3項に基づき、委員長は、委員の互選により選出することとしております。

この点につきましては、本日の開催に際し、事前に委員の方々にご相談させていただき、委員長には愛知県知事の大村秀章様を選出させていただくこととしております。大村委員長、一言ご挨拶を頂戴できますでしょうか。

○大村委員長 皆さんこんにちは。愛知県知事の大村秀章です。この招致委員会の委員長を務めさせていただくことになりました。何とぞよろしくお願ひ致します。

私ども愛知県では、2014年に技能五輪全国大会を開催させていただきました。大変盛り上がりまして、その成果と感動を踏まえて、次代の若者にもものづくりを継承し、技能尊重機運を高める、そしてさらに世界に発信し、日本のムーブメントとして、技能の継承、技能五輪をやっていこうということで取り組ませていただいております。そこで、技能五輪国際大会の招致ということに取り組ませていただくことと致しました。

そして、昨年9月には、私どものプレゼンテーションを受けていただきまして、国として愛知を会場とする招致方針を正式に決定をしていただき、本日、招致に向けて一致団結オールジャパンで取り組む組織として、この招致委員会が設置されることになりました。厚生労働省はじめ、関係の皆様から心から感謝を申し上げる次第であります。

日本のお家芸というのは、さまざまありますが、ものづくり、それも付加価値の高いものづくりというのは、まさにその1つではないかと思っております。

私ども愛知県には、技能検定の国家試験を合格した方、技能士の方が35万人、人

口 750 万人で 35 万人ですから、すごい割合で、圧倒的に日本一でございます。第 2 位のところよりも、第 2 は東京だと思いましたが、その倍以上はおられます。そうだったこともあります。

そして、技能五輪全国大会は 13 年連続最優秀技能選手団賞、そして最近の国際大会でも、アブダビ大会はちょっと金メダルは、たしか 9 位だったと思いますけれども、3 つのうち 2 つはうちの愛知県の選手が獲得してくれたということでありますが、何とかそれを挽回していきたいと思えます。

併せて、愛知県は製造業の生産額が 45 兆円で、40 年連続日本一でございます、第 2 位の神奈川県が 16 兆円、第 4 位の大阪が 15 兆円でありますので、45 兆円の愛知県はいかに製造業が大きいかということだと思えます。

それと併せて、最近の 4 月の頭の報道であります、県別の GDP も、ちょっと GDP の計算方法、国のほうが企業の研究開発が入ってなかったものやつを国際標準に合わせて入れるということで計算し直したら、今回、初めて愛知県の GDP が大阪を抜いて 2 位ということにもなりました。そういう意味で、引き続きこうした付加価値の高いものづくり、技能をさらに盛り上げていきたいと思っております。

私ども、今後、2019 年と 2020 年度と 2 年連続で、技能五輪の全国大会と障害者のアビリンピック全国大会を愛知で開催させていただきます。しっかりと盛り上げていきたいと思えます。そして、その先に 2023 年の技能五輪の国際大会を、ぜひこの日本に、愛知に招致をし、日本のお家芸であるものづくり、そして付加価値の高い製造業をさらに盛り上げていきたいと思っております。

来年 2019 年 8 月のロシア・カザンで開催される WSI 総会で大会招致を勝ち取るために、すばらしいプランをつくっていかなくちゃいけないということでございます。開催地決定までは 1 年 4 カ月でありますので、どうか今日ご参加いただきました皆様方のご支援、ご指導を何とぞよろしくお願い申し上げます。

いずれにしても、来年夏、2019 年 8 月の WSI 総会に向けて、招致が勝ち取れるように何とぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。○事務局 大村委員長、ありがとうございます。では、ただいまからの議事進行は大村委員長にお願い致します。

○大村委員長 それでは、早速、お手元の資料に沿って議事を進めさせていただきますので、よろしくお願い致します。

委員長代行および副委員長を決める必要がありますので、設置要綱第 3 条第 4 項に基づいて私から指名をさせていただきます。

お手元の資料 2 をご覧いただきたいと思えます。

まず、委員長代行を釜和明委員にお願い致します。そして、副委員長を宮永俊一委員、山本亜土委員、豊田鐵郎委員、加藤宣明委員の 4 名の方々にお願いしたいと思いますので、よろしくお願い致します。

他の委員の皆様方には、時間の関係もありまして、読み上げは省略させていただきますが、本資料に記載の 25 名の方々でございますので、何とぞよろしくお願い致します。

次に、大会招致部会、機運醸成部会、選手強化部会の設置の件であります。

設置要綱第 7 条第 2 項に基づいて、部会長および副部会長を決める必要がありますので、私から指名をさせていただきます。

お手元の資料の 3 をご覧ください。大会招致部会につきましては、部会長を福井昌平委員に、そして副部会長を小澤真一委員にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

機運醸成部会につきましては、部会長を水野直樹委員に、副部会長を横山陽二名古屋外国語大学准教授にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

そして、選手強化部会につきましては、部会長を赤松明委員に、そして副部会長を菊池拓男職業能力開発総合大学校准教授にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

各部会の役割等については、事務局から説明を願いたいと思っております。よろしくお願い致します。

○事務局 資料 3 をそのままご覧ください。各部会では、それぞれの役割に即しまして専門的かつ集中的に検討いただきまして、ご検討いただいた内容を委員会に報告をしていただきます。

具体的には、大会招致部会、招致に必要な具体的な招致活動方針、大会テーマ、大会開催プラン等の企画立案等、機運醸成部会、国内の招致機運、技能尊重機運の醸成に資する具体的取組の企画立案等、選手強化部会、国際大会に出場する選手等の強化策の検討、その下にございます職種別タスクフォースの総括管理等を行います。

職種別タスクフォースといいますのは、選手強化策の検討、実施に当たっては、職種ごとに状況等が異なることを踏まえまして、職種別に選手の強化策を検討、実施いただく主体として、6 月以降、順次立ち上げていくことを考えているものでございます。

いずれの部会も、部会長、副部会長のほか数名程度で構成して、5 月ごろの立ち上げを予定してございます。以上でございます。

○大村委員長 引き続きまして、資料の 4、2023 年技能五輪国際大会の日本・愛知への招致に向けた取組（案）について、事務局から説明を願います。

○事務局 資料の 4 をご覧ください。国際大会の招致に関する基本情報、各部会における検討事項案と、大きく 2 つに分けてご説明をさせていただきます。

まず、2 ページ、技能五輪国際大会の概要でございます。技能五輪国際大会は、原則 22 歳以下の青年技能者を対象とした唯一の世界レベルの技能競技大会でございます。隔年で開催されております。国際大会の運営機関はワールドスキルズインターナ

ショナル、略称 WSI でございます。2019 年にはロシア・カザン、2021 年には中国・上海で、国際大会が開催される予定でございます。

3 ページをご覧ください。2023 年の国際大会招致に向けたプロセスをまとめてございます。

上の箱でございますが、日本再興戦略 2016 に基づきまして、国において誘致に向けた検討が行われ、愛知県が取りまとめた 2023 年技能五輪国際大会基本構想を踏まえまして、真ん中の箱でございますが、昨年 9 月、愛知県を候補地として招致に立候補することが決定されました。現時点において、立候補を自国内で明言している国は、先ほどからお話ありますようにフランス、立候補を検討している国はスイスでございます。

下のほうには、招致に向けた今後のスケジュールを示してございます。赤枠部分をご覧ください。本年 10 月の WSI 総会で、2023 年国際大会開催国の正式な募集が開始をされます。日本としては、改めて立候補を表明したいと考えております。その後 2019 年 1 月ごろに審査書類の提出、3 月ごろに WSI 事務局による検証訪問があります。その後 6 月ごろに立候補ファイルを提出し、8 月のロシア・カザン大会における総会で開催地が決定されます。

4 ページでございます。国際大会運営組織でございます WSI には、現在、正加盟国、準加盟国を含めまして 79 カ国が加盟しておりますけれども、右のほうをご覧くださいと、投票権があるのは、このうち正加盟国の 70 カ国でございます。開催地に 2 カ国以上の立候補があった場合には、これら 70 カ国による選挙となります。絶対多数、つまり有効投票の 50%プラス 1 票を獲得した国に開催地が決定を致します。

5 ページ以降が、各部会による検討事項案でございます。

6 ページをご覧ください。開催プランは、大会招致部会の検討事項です。競技会場は、現在、愛知県が常滑市に整備を進めております愛知県国際展示場でございます。右下の地図をご覧くださいと分かるように、中部国際空港に直結をしてございます。2019 年 9 月に完成予定です。開催期間は、2023 年 10 月から 11 月の中での 10 数日間の開催を想定してございます。

次に、7 ページ、大会テーマ、これも大会招致部会の検討事項です。愛知県の基本構想策定委員会では、テーマを「技能をめぐる対話～創造性あふれる技能と多様な人々が協力し合うことによる、世界の持続的発展～」としてございます。

他方、厚生労働省の検討会では、「技能が拓く世界の未来」を候補としつつ、技能をめぐる対話を通じて、技能分野が抱える課題の解決策を模索し、提示する等の具体的な方向性を含め、引き続き検討すべきとされたところでございます。本年 10 月の WSI 総会で打ち出せるよう、大会招致部会でご検討いただきたいと考えてございます。

次に、8 ページ、国際招致活動、これも大会招致部会の検討事項でございます。WSI

関連の主な行事の機会だけではなく、国の外交ルート、民間の経済活動とも連携をしまして、あらゆる機会を活用して加盟国・地域に日本開催への支持を要請したいと考えております。加盟国・地域の状況等を踏まえながら、きめ細かに、また競合国の動向も踏まえながら、効果的な支持要請を行いたいと考えております。

次に、9 ページ、機運醸成部会の検討事項です。国内の招致機運醸成等に向けた活動方針として、上の箱に整理してございます。「参加」、「共感」を通じた国内の機運醸成等に取り組み、そのために国内技能競技大会等において参加型の機会を設けるほか、企業、個人の参加による国内の期待感醸成、著名人の参加による情報発信等を考えてございます。各種技能競技大会等のスケジュールや考えられる具体的な取組を、下の箱に整理してございます。

10 ページ、冒頭、大臣からご発言がございました選手強化についての方向性の案でございます。これらの取組は予算措置が必要な事項が含まれることから、国において予算要求を行い、2019 年度からより強化した形で実施することが予定されております。具体的な対応実施につきましては、選手強化部会および職種別タスクフォースにおいて検討致します。

11 ページ、招致委員会の今後のスケジュールと、各部会職種別タスクフォースのスケジュール案でございます。第 2 回以降、招致委員会は、WSI の主要スケジュール前の開催を予定してございます。主要イベント前に具体的な活動方針等を各部会から報告いただき、招致委員会での審議を踏まえ本番に臨みたいと考えております。

12 ページは、ご参考までにこれまでの国際大会の開催実績およびメダル獲得数をお示ししてございます。

主要説明は以上でございます。

○大村委員長 ありがとうございます。これまでの資料について、ご質問、ご意見等々があればよろしくお願い致します。

よろしいですか。それでは、特にないようでございますので、ここで、改めまして委員の皆様方から、自己紹介を兼ねて、2023 年技能五輪国際大会の招致に向けた取組へのご提言、期待することなどについて、お一人、大変恐縮ですが、1 分程度でご発言をいただければと思っております。

ご発言順についてでありますけれども、横尾委員におかれましては、ご予約があることから最初にご発言いただいた上で、赤松委員から時計回りをお願いしたいと思います。その後、宮永副委員長、山本副委員長、豊田副委員長代理の小川様、加藤副委員長、釜委員長代行の順とさせていただきます。着席のまま構いませんので、横尾委員、よろしくお願い致します。

○横尾委員 それでは、経済同友会の専務理事を務めております横尾でございます。よろしくお願い致します。

このたび、2007 年以來の日本開催を目指す招致委員会の委員を務めさせていただ

くことを大変光栄に思っております。技能五輪と言えはものづくりと、今もご紹介がございましたけれども、日本にとって重要な役割を果たしてまいりました。しかしながら、AI など第 4 次産業革命の時代には、いわゆるコトづくりや課題解決型ビジネスに挑戦して付加価値を創出し、産業競争力を強化することが求められています。

そういった点で、昨年のアブダビ大会の 51 職種は、情報通信系、サービス系、アートファッション系などバランスがとれていると思います。22 歳以下の青年技能者にとって、自分が目指す道で金メダルを取るぞという目標は大きな動機付けになると思います。

私ごとになりますが、約 20 年弱前の名古屋勤務では、政財界をはじめとする愛知の皆様には大変お世話になりました。私どもも、微力ながら、若い方々が愛知で金メダルを取るぞという明快な目標を掲げられるように努めてまいりますので、どうかよろしくお願い致します。以上でございます。

○大村委員長 ありがとうございます。それでは、赤松委員からよろしくお願い致します。

○赤松委員 赤松でございます。選手の強化委員の座長を務めさせていただきますけれども、この大会をうまく成就するためには、いろいろとそれぞれの分野で検討しなきゃいけないことがたくさんあると思います。しかし、それぞれ大事な仕事ではありますけれども、大会の中に入るのは選手です。選手がいかにもうまく競技を達成していくかというのは、皆様方のご協力があつてこそだと思っていますので、ぜひぜひ選手の練習ができるよう、うまく環境をつくっていただきたいなと思っております。

とにかくこういう大会は、技能士、または技能の社会的地位の向上につながると思っております。世間では知らない人がいっぱいいると思いますけれども、これを機に、多くの方々に技能の大切さを知らせていきたいなと思っております。以上です。どうもありがとうございました。

○池澤委員 皆さん初めまして、池澤あやかと申します。普段はタレントとして活動しておりますが、月の半分はソフトウェアエンジニアとして働いております。その関係で、タレントの仕事もどちらかというと IT に寄った仕事が多く、NHK のロボコンや IT 関連記事の執筆、イベント登壇といった仕事を普段しております。技能五輪は IT の技能を競う競技もあるということで、今回このような場にご指名いただき、大変うれしく思います。

先日、技能五輪国際大会の金メダリストにお話を伺うイベントが渋谷ヒカリエで行われたのですが、そこで金メダリストの方々から、金メダルを取るまでどういった訓練を行ってきたか、大会においてミスをしないう工夫や、こういったアイテムを使ったらミスしないといったお話を伺うことができました。自らの技術に誇りを持ちハキハキとご発言される姿は、本当に格好いいなと感じました。

私は日本を技術立国だと思っております。この技能五輪招致活動の中で日本の技術を

国内外にアピールすると同時に、技術を磨くことの素晴らしさを多くの若者に知って頂きたいと思っております。以上です。ありがとうございます。

○小林委員代理 日本商工会議所専務理事石田の代理で参りました小林と申します。よろしくお願い致します。

技能五輪は、若者のものづくりの技能を高めていくのはもちろんのことですけれども、ものづくりの精神の伝承など、日本の産業にとって非常によいものではないかと思っております。ぜひ日本への招致がかなうよう、日本商工会議所としても全面的に応援させていただきたいと思っております。

ただ、少々残念なことで致しましては、先ほど赤松先生もおっしゃいましたけれども、認知度が足りないのではないかと思っております。国民の皆さんの認知度が上がるよう、私どもも努力してまいりますので、一層の取り組みをお願いしたいと思っております。以上でございます。

○井上委員 日本造園組合連合会理事をしております井上花子と申します。技能五輪国際大会につきましては、1999年から造園職種ができて、サポート、そしてエキスパートを4期8年やらせていただいております。現在も、約20年にわたって技能五輪国際大会、感動しながらもしんどい仕事をしてまいりました。

日本に招致をする一番大事なことは何かといいますと、私が思うに、前回のアブダビ大会というのは、大会運営が全然選手ファーストではなかった。やはり選手ファーストの大会運営が正確にできるのは日本であるということをもっと訴えるべきではないかなと思っております。

私どもは、2007年静岡大会のときにも造園競技をやらせていただきましたが、そのときに世界からいらっしゃった方に、日本のやっていることはパーフェクトだと言ってもらいました。そのような運営ができる日本というものをもっと訴えていくことが、招致につながっていくのではないかなと思います。

それから、もう1点は、国内での招致機運を盛り上げていく中で、今、デンソーさんたちは、この大会が実施される時、選手の候補者が社員としていらっしゃいます。しかし、われわれ造園であるとか、ケーキ（洋菓子製造職種）さんとか、その他ほかの産業では、今どこに選手候補者がいるだろう、われわれの産業に誰が入ってくれるだろうという段階だと思います。今の高校2年生が、ちょうど選手候補者の対象になってくるかと思っておりますので、農業高校、工業高校、専門学校等を通じて、その年代の学生たちに技能の楽しさというものを訴える必要があるかと思っております。

そのときに、先日もゴールドメダリストのいろいろなイベントがありましたが、やはり技を見せるということが一番大事だと思います。私は、見せるということが魅力の魅につながっていくと思っておりますので、これからはいろいろな職種、設営も大変でしょうが、やっていることを見せること、これこそが若者に訴えられていくのではないかなと思います。

その実例を1つだけお話しします。2009年にカルガリー大会がございました。造園は、最後敢闘賞を取れましたけれども、大変厳しく、最後の最後に本当に倒れ込んで完成をさせました。その姿を映像に撮っていただいて、全国に、高校とかいろいろなところに流していただいたのです。それを見て、おれもやるぞという若者がたくさん増えまして、造園競技は今非常にたくさんの若手が来て来ております。そういう若者が見て感動するようなものを、映像ですとかいろいろなもので提供していただけたらと思います。一生懸命やらせていただきます。よろしくお願ひします。

○今井委員 移動式ロボット職種のエキスパートを担当しています、今井です。私自身も、2009年のカナダ・カルガリー大会に選手として参加しました。このたびは、このような大きな大会の招致、自国ですということ、大変大きな喜びと期待を感じております。

技能五輪の魅力は、厳しいトレーニングの中で身に付けた若い技能者の高度な技能にあります。加工系の職種ですと、何百とあるような加工箇所を、ひずみや熱膨張を考慮しながら寸分の狂いなく試行します。ロボット職種では、機械や電気、制御のさまざまな技能を駆使しながら、短時間で早く正確に動くロボットをつくり上げます。

選手は、この日のために自分の人生をささげて競技に取り組んでいます。選手がその能力を最大限発揮できる環境を整えることが、私たちの使命であると思っております。

日本の高品質な道具や材料、サービスをもってすれば、世界最高の競技環境を整えることができると思っております。オールジャパンで、選手にとって最高の大会にしていければよいと思っております。以上です。

○井水委員 日刊工業新聞の社長をしている井水でございます。技能五輪国際大会を名古屋に招致すること、全面的に協力させていただきたいと思っております。国際大会を国内で開催するという有形、無形のメリットは、大変大きなものがあると思っておりますし、日本企業の技術力の向上、「技術立国・日本」の復活に向けた絶好の機会になると信じているところでございます。

技能五輪国際大会の金メダル獲得数というのは、非常に話題になりますけれども、国際競争力と一定程度の相関関係があると考えております。日本は1960年から70年代にかけて金メダルで断トツ、トップを堅持しておりましたけれども、それと連動するかのように日本企業も最近にはトップの座を韓国、中国に譲ることが多くなり、前回アブダビで9位にとどまっております。

その間、日本の国際競争力の低下が指摘されておりますが、この悪い流れを断ち切るためにも、国内招致を実現し、改めて技術、技能に対する国民、企業の意識醸成を図ることが近道だと思っております。

もう1つ、弊社は、経産省とNEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）が主催し、名古屋の国際展示場で2020年に開催されます、「ワールド・

ロボット・サミット」の事務局を務めています。これはロボットオリンピックの大きな大会ですけれども、最先端のロボットが日本に集結します。世界の注目を集めることは必至であります。その3年後に技能五輪が日本に開催されるとなれば、「モノづくり・日本」が世界に強く発信できると思います。さらに、その先に大阪の万博が取れば、日本としても発信力を継続して盛り上げていくことができるということで、大変期待ができると思います。以上です。

○大関委員 全国技能士会連合会会長の大関でございます。今、日本には多くの外国人観光客がお見えになっています。この外国人観光客の目的は何だということ、東京都で調査した結果ですが、その1つが日本の食事を食べ歩くこと、2つ目が買い物をすることだということです。これは、よその国にはない現象かなと思っております。

そして、日本というのは安心、安全、高品質の国という印象を持って答えているアンケート結果がたくさんございます。安心、安全というのは何となく分かるのですが、高品質の国、日本人があんまり分かっていない、当たり前だと思っていることが高品質だと感じる、これがまちにあふれている、こういう理解をしているということです。

これは何だろうかと思えますと、数百年にわたって日本の中に伝承、継承されてきました匠の技、こういう人たちの力が大きいのではないだろうかと思えます。

そして、明治維新、あるいは戦後の高度成長、こういう中において経済大国にもなれたというのは、やはりものづくり、その基本には衣食住という匠の技、こういうものがあつたからではないだろうか。そこに工という工業が入って、衣食住工になりまして、これにより、世界に冠たる経済大国にまで成長したのではないだろうかと思うわけでございます。

そうしたものづくりに携わる人材、今現在ものづくり離れと言われてはいますけれども、それでも現職の技能士が372万人いるのです。これは大きな基礎のエネルギーだと思います。そういう人材がたくさんいる日本、すぐれた生産基盤を持っている日本、そういう中で国際大会を開くというのは大変意義のあることです。

特に日本の中でも愛知県、これは誰もが認めるものづくり県でございます。そういう中で開催していただくということは、日本の誇りでもあるし、世界からも安心して訪れることができるのではないだろうかと思っております。

2020年に東京オリンピックが開催されますが、そこで経験するおもてなし、ノウハウ、そういったものが3年後の技能五輪国際大会に生かされるのではないだろうかと思っております。

日本に来てくれれば、すぐに日本を気に入ってもらい、ここで技能五輪やるべきだという雰囲気になり上がると思います。ぜひいろいろな場面を活用して、日本はよいところだと宣伝していただければと思っております。以上でございます。

○小澤委員 小澤と申します。前回、静岡大会で競技運営を担当しておりました関係

で、ここにいると思っております。実務面なことから、3点申し上げます。資料5を併せてご覧いただけるとありがたいです。

実は静岡大会は、予算の制約で、当初の構想がどんどん縮小していったという経緯がございます。それを見ていたワールドスキルズインターナショナルは、大変残念がっております。日本でやるとまた同じことが起きるのではないかというワールドスキルズインターナショナルの懸念を払拭するためにも、併設事業も含めた十分な予算を早期に確保することが、最優先課題かと思っております。それが、1のところを書いてある内容です。

2のところですが、投票先の決定権は、事実上、公式代表という方々が握っておられますので、その人向けプランをつくるということが重要だと書いております。ただし、ライバルのフランス、スイスも同じような事業を提案しますので、結局のところ、日本ならではの特別な何かについて魅力的に提示をすることが重要となると考えております。

2 ページ目の3のところには、大会の成功には専門学校、各種学校の皆さんのより一層の参画が必要で、そのための思い切った助成制度の導入をお願いしたいということを書いております。また、学生の皆さん、愛知県におられる多くのメダリストの方々には、さまざまな場面で様々な場面でご活躍願いたいと考えています。

最後のページは、各国の力の入れ方をご参考までにお示ししました。以上でございます。

○後藤委員 エステティック協会の後藤と申します。よろしくお願ひ致します。技能五輪大会のビューティーセラピー部門ですが、接客とスキンケア技術についてエスティシャンが競います。日本ではエステティックという言葉が一般的かと思っております。

エステティックというのは、人が美しく健やかに生きるということをサポートすることで、いかに美しく年を重ねるかという人間の永遠のテーマでもあり、高齢社会を迎えた日本では、今後もさまざまな分野の成長がとても期待される業種ではないかと考えています。

そのような中で、愛知への招致に向けては、まず業界をはじめとして、多くの方々に技能五輪への理解を深めていただくように、この業種や種目の内容なども、誰にでも分かるように説明と策を練って、認知度を高めていきたいと考えています。

また、若者向けに、技能五輪国際大会の情報提供を積極的に行って、技能に興味を持つ方々を増やすことが大切であると考えています。グローバル技能を実践的に訓練でき、そして参加したいという挑戦意欲を高め、また大会後もその技能を活かした職場で勤めることができるという、勝利へのストーリーというか、そういった段階を踏んだ取組が必要ではないかと考えております。どうぞよろしくお願ひ致します。

○小林委員 私は、全国専修学校各種学校総連合会の会長を務めております小林と申します。この全国専修学校各種学校総連合会というのは、専修学校及び各種学校に

よって構成される各都道府県の協会支部により組織されています。全国各地に、あるいは各県各地に約 3,200 校の専修学校がございます。学んでいる学生さんたちは約 65 万人おまして、地域の特色や特性に基づくさまざまなものづくりや、あるいは各種の専門職を目指して学んでおります。

この技能五輪国際大会は、さまざまなものづくりを目指す学生たちにとっても、国際的なものづくりの大きな発表、あるいは評価の場となる可能性があります。わが国の将来を担う学生たちにとって、大きな夢と希望、そしてやりがいと明確な目標を与えることになると思います。わが国の歴史的なものづくりの場である愛知県への招致を、ぜひ勝ち取っていただきたいと願います。

そして、日本は世界一の長寿国であり、AI や識別機能、画像認識とか目を持った介護ロボットの開発なども目覚ましいものがあります。介護者の身体的な負担を軽くする装着型のロボットや、コミュニケーションロボット、あるいは食事介助ロボット、家事援助型のロボットなど、介護ロボット開発においては国際的な競争も厳しさを増している現状があります。

2023 年の技能五輪国際大会では、この技術開発によって進化した介護ロボットが、現場でいかに実用性、利便性を発揮することができるか、それを評価することに加え、シーズとニーズのマッチング評価の競争などができると、大変面白くなるのではないかと考えております。

この介護ロボットの競争は、介護の人材不足を補うことや、あるいは日本の強みを世界に示すことにもなると思います。以上、ぜひ成功を祈念しております。

○澤田委員 SD の澤田でございます。私は、イベントの企画プロデューサーが専門でございますが、2005 年の愛知万博にかかわり、それから 2025 年の大阪も招致委員をしております。2007 年静岡大会の会場のデザイン設計にも関わらせていただきましたが、その折に感じたことは、選手たちの輝く顔が非常に印象的だったことです。ただ、それは会場にいらっしゃった方は分かったのですが、広く日本国民が共有できたかということ、その点が非常に残念だったと、私は思っております。

技能職の仕事は、私どもは、いつもサービスやモノとして享受するわけですが、その現場というのはなかなか見えにくいものであります。このような機会は、技能者の輝く姿、もしくは誇りを持つ姿というものを多くの国民と共有する絶好の機会だと思います。技能は輝いて生きることの重要な糧になるのだということを、社会全体、若者とそれを囲う人が共有することが大事だと思います。技能に誇りを持つことが、日本の未来に繋がるという点では、そこがポイントになるのではないかと私は思っておりますので、ぜひともそういう大会になればと思っております。

○千原委員 どうも皆さんこんにちは。お笑い芸人の千原ジュニアと申します。私、なぜここに呼ばれたのかなということで、NHK の名古屋さんのほうで「凄ワザ」という番組をやらせていただきまして、日本のすばらしい技術、技能というのを目の前

で見せていただいて、本当に何度も感動させていただいております。また、そういう番組を見た若い子たちから非常に反響をいただいて、僕もああいう世界に進みたいという声なんかもいっぱい聞いております。

今回、この委員会に呼んでいただくまで、僕は、正直、全くこういう大会があることを知らなかったの、僕みたいな人間がたくさんいると思います。ですから、私、まあまあ微力ながら、いろいろところで発信させていただいたり、多くの方々にこの技能五輪国際大会を知ってもらえればと思いますので、何なりとおっしゃっていただければと思いますし、ぜひこの愛知県で、愛知県がまた形がいいですね。両手で物をつくっているような、この愛知県でやるべきですよ、ものづくりは。ということで、よろしく申し上げます。

○大村委員長 ありがとうございます。「凄ワザ」見ております。

○事務局 事務局から失礼致します。ここで寺島委員の順番ということですが、本日ご欠席の寺島委員におかれましては、今週 20 日の金曜日にご自身の番組で技能五輪特集番組を放映する予定とのご連絡がございました。皆様のお手元に資料 6 として番組のご案内を配布しておりますので、ぜひご参照ください。

大変恐縮ですが、会議の時間が若干押ししておりますので、ご発言のほうご協力いただければ幸いです。

○中西委員 こんにちは。愛知県の名古屋から参りました名古屋製菓専門学校という学校をさせていただいております。学校法人中西学園という学園名でございますが、大学も専門学校も複数持つておる学園でございます。

毎日若者たちと付き合っている中で、今の日本で一番気になっているのは、早期離職や若年未就業者という大きな問題点です。魅力のある職業、職種、技能というものや、別の世界を若い子たちに見せていきたい、子どもたちに見せていきたいというのが、われわれ現場の今の思いでございます。

私たちも、先ほどの造園の先生たちとよく一緒に国際大会に出させていただくのですが、世界各国でお世話になっていると、そこへ出てくる若い子どもたちの輝いている目を肌で感じます。このような環境を日本で、できたら愛知で、若い子たちや子どもたちに見せていきたいなど。今の子どもたちには、文章やそういった表現よりも、実際にビジュアルで、環境で見せていくということも大きな事業ではないかと思っております。

専門学校という立場ではなく、これからの若い子たちへのメッセージをこの大会でぜひ示していけたらなと思っております。ぜひ皆さんもご理解を賜って、ご協力をいただければと思っております。よろしくお申し上げます。

○挟土委員 皆さんこんにちは。挟土と申します。岐阜の高山から参りました。僕は、1983年のオーストリアのリンツ大会に左官として参加しています。当時、8キロぐらい体絞ってというか、やせて、勝ちたくて行ったんですけども、見事な惨敗で、本

当に悔しい思いをして帰ってきこことを覚えています。

それはずっと気持ちの中に引きずって、それが今でも、僕、56歳になりますけれども、今でも技能とか表現に対する執着につながっているのです、ああいう技能五輪の競技大会というものは、勝った選手も負けた選手も、何かを絶対体に刻んでいくという意味では非常に意味があるし、そういう技能五輪選手の経験者が、今、社会にどんなふうに関わっているとか、どんな表現をしているとか、すごい転身をしているとか、こういった役立ち方をしているんだというようなことも発信していくと、機運にもつながっていくんじゃないかなと思います。

しかし、この間、僕、トヨタの開発部で講演してほしいということで行ったんですけども、トヨタにはモデラーという工業粘土を手で削るすごいプロ集団がいて、そこには自動車の塗装の技能五輪の部門もありますが、日本は全然勝てなくなっていて、若い子どもたちがものづくりに参加しなくなっているというか、職業に就かなくなっているのは歴然としています。特に建築系などは、中小企業はいい選手を育てることはほとんどできないので、経済的にも応援してやらないと、大企業がバックに付いている選手は別として、普通の一般の庭とか石工というのは、よほどのバックアップをしないと世界大会で勝つ見込みというのはないのだろうなということをトヨタの人と話しましたがけれども、そういう意味で、僕もいろいろ経験がありますので、お手伝いできればなと思います。

○長谷川委員 全国中小企業団体中央会副会長長谷川と申します。愛知県中小企業団体中央会の会長も併せてやっております。どうぞよろしく申し上げます。

技能五輪国際大会というのは、各国のものづくりの将来を担う若者の職業訓練および技術水準の向上や国際交流を目的とした、世界水準の技能競技大会であるとお聞きをしております。

わが国においては、経済の屋台骨を担っている中小企業がものづくり産業を支えていると言っても過言ではなく、中には、世界トップ水準の技術を保有する中小企業も存在しております。先進性の高い技術や分野におけるさらなるレベルアップはもちろんです。地域振興、地域創生の観点で考えれば、伝統工芸に係る技術や技能の継承・維持も重要な課題ではないかと考えております。

私自身は、候補地であります愛知県一宮市においてパンの製造業を営んでおりますが、パンの全国的な生産量は、平成29年12月に発表された農林水産省食品産業動態調査によりますと125万4,062トンとなり、前年度である平成28年度に比べ1.3%伸びております。生産量は、平成22年度以降、連続して対前年比をプラスで移行しております。

愛知県はパンの生産量は全国トップでありますけれども、少子化による人口減少、高齢化による喫食率の低下や消費者の嗜好の多様化により、厳しい競争環境下に置かれている状況にあります。そのため、所属する愛知県パン協同組合でも、高品質なパ

ン提供のための技術支援やパン食の新たな開発・提案等を積極的に行っており、パン食普及のための情報発信に努めているところです。

今回、招致立候補に当たっては、国を挙げて機運を高めていくことが成功の鍵であり、大会参加者、関係者のみならず、開催地や参加者の属する企業等、多くの方々に招致のメリットを実感していただくことがポイントかと思えます。

そのメリットをより具体的に示していくためにも、まずは、本日までご参集の皆様が、それぞれ活躍の場において、積極的に情報を発信していくことが肝要なのではないかと考えるところであります。私からは以上でございます。

○福井委員 大会招致部会の座長を仰せつかりました福井と申します。改めて、ずいぶん荷が重いなど、両方の肩にずしっと重いものがございます。

愛知県主催の技能五輪国際大会基本構想策定委員会の座長も務めさせていただきましたが、そのときから、技能五輪国際大会は単なる競技大会だけではなくて、1つの大きなムーブメントであるという、WSI（ワールドスキルズインターナショナル）のビジョンとかミッションに非常に大切な視点なのではないのかなと思っております。

招致を成功させるためには、競技大会そのものを成功させる力というのは、日本は十分持っていると思えますけれども、WSIのビジョンとかミッション、掲げているものを共有する、それを実現する力が日本にはあるんだということを、改めてアピールしていく必要があるのではないかなと思えます。その内容を私たちに理解していきますと、持続可能性とか、大会が持っているレガシーを大切にするという姿勢なのではないかなと思われま。

実は、私に関わらせていただきました国際博覧会、先ほど澤田さんご紹介いただきましたけれども、愛知万博の2005年のチーフプロデューサーをやらせていただきました。そういう国際博覧会事業もそうでございますし、オリンピック・パラリンピックという事業も、世界の中で推進されている大きなイベントも、この持続可能性とレガシーを重視するムーブメントをつくるという考え方になっているんですね。ですから、そういう意味では、この技能五輪国際大会は、はるかに前からこのムーブメント重視の姿勢をとっているということを示していますので、私どもとしては、ぜひこの機会に、技能五輪国際大会の招致開催活動を通じながら、そしてそれを実践しながら、日本と愛知がWSIビジョンに連携した技能のセンター・オブ・エクセレンス、あるいはセンター・オブ・コミュニティになっていただきたいと思えますし、そういうものとして進めていくという視点が大事なのではないかなと思えます。

そのためには、まず第1に、大会出場を戦略的な視点とする、先ほどから多くの方がおっしゃっております技能者育成組織の活性化とか、それから裾野を広げる、そうしたムーブメントが絶対必要なのではないかなと思えます。

それから、もう1つ、愛知県と中部地区に集積しているものづくり産業の多様多彩

な集積というのも、技能との関連を位置付けることによって世界にアピールしていけるのではないかなと思います。競技大会に参加する人たちも、この愛知の最先端の産業活動を見たいとか、あるいはそういった活動が技能と密接に結びついていることをアピールすることによって、この招致運動の競争優位性も出てくるのではないかなと思っています。

それから、もう1つは、国民とか県民のライフスタイルの中に、技能の価値というものもしっかりと共感していただくということも必要なのではないかなと思います。そういう意味では、新しい持続可能な社会をつくるために、今、いろいろな形の教育プログラムでありますとか体験プログラムが世界中で開発されているわけですが、そういったものも積極的に取り入れて、われわれ国民あるいは県民のライフスタイルの中に、技能の意味みたいなものを取り入れる活動ができればいいのではないかなと思っています。

本委員会で、「日本と愛知に行こう」と世界が認めてくれるような「技能ムーブメント」を戦略的に構築するというのが大切なのではないかなと思っていますので、どうぞ皆さんよろしくお願い致します。

○中田委員代理 名古屋市の市民経済局長の中田でございます。本来ならば副市長の堀場が参加するところでございますが、本日所用のため、代理で参加させていただいております。

時間が押しておりますので、一言だけ。私ども名古屋市と致しましても、地元の中心的な都市と致しまして、この技能五輪国際大会を招致できますようにさまざまな面で、特に市民の皆様によく知っていただく知名度を上げるために何ができるかということをよく考えながら、技能五輪全国大会もございますので、そんな場も活用しながら、招致できるように協力してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。以上でございます。

○水野委員 皆さん初めまして、NHK エンタープライズの水野と申します。皆さんご存じかと思いますが、NHKには「ロボットコンテスト」という長寿番組、去年30年目を迎えました、ここにいらっしゃる千原ジュニアさんにも池澤あやかさんにも、ゲストでお越しいただいたことがございます。

私はそのイベントに15年ほど関わっておりまして、若者のものづくりの現場を、イベントを通しても見ているのですが、ものすごい彼らのピュアな頑張る姿、それを見ていると、日本ってまだまだ大丈夫なんだろうなというも再確認するという状況でございます。ぜひ技能五輪を日本で開催して、そういう人たちの姿をたくさんの人に見ていただきたいということを考えております。

また、機運醸成の部会というところの部会長もさせていただくのですが、千原さんも池澤さんもいらっしゃるということで、非常に有力な味方がおりますので、千人力だと思っております。しっかりと機運醸成もしてまいりたいと思っております。よろ

しくお願い致します。

○森田委員 全国商工会連合会理事の森田でございます。愛知県商工会連合会の会長も務めさせていただいております。商工会は、大都市を除きまして各市町村を中心とした経済団体でありまして、会員の大部分が中小企業・小規模事業者です。私自身、自動車部品を製造するものづくり企業の経営者でもありますので、大会招致による波及効果に大いに期待をしております。

昨今、中小企業・小規模事業者におきましては、大変な人手不足の状況にあり、生産性を向上させることが喫緊の経営課題であります。そういった折、今回の大会招致を機に、大企業のみならず、中小企業・小規模事業者で働く技能者が意欲を持って技能の取得に励むことで、日本のものづくりやサービスがよりレベルアップし、次代を担う若手技能者を輩出する仕組みづくりを図ることはぜひとも必要だと考えております。

また、招致を進めていく中で、先進的な産業や職業訓練の視察ツアーも検討されていると伺っておりますので、ぜひ県内各地域に行っていただき、日本の魅力を知っていただくことはもちろん、地域に根ざしている優れた技術やサービスを持っている中小企業・小規模事業者を多くの方々に見ていただきたいと思います。

大会招致に向けましては、オールジャパンでの取り組みが必要であり、商工会としても微力ながら大いに協力をさせていただきます。ありがとうございます。

○芳野委員 ありがとうございます。労働組合連合の副会長と、ものづくり産業労働組合 JAM の副会長をしております芳野でございます。どうぞよろしくお願い致します。

今回の愛知への招致活動が、国内の産業、企業の若年技能者の人材育成ですとかキャリア形成支援、国内のものづくりの基盤強化につながればと考えております。さらに、質の高いものづくりへの社会的評価を高めることに加え、中小企業の若年技能者がこうした競技にエントリーできるよう、十分な周知とともに、選手育成資金等への支援拡充についてもぜひ検討いただければと考えております。

技術、技能の向上に日々取り組む若者の努力が十分に評価され、報われることは、若者のものづくりに対する意識啓発の促進と技術者を目指す若者の裾野が広がるということにつながると期待をしております。どうぞよろしくお願い致します。

○和田委員 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長の和田でございます。私どもの機構では、働く意欲のある全ての人々が、その能力を発揮して活躍できる社会の実現に向けて、高齢者、障害者、求職者、その他の労働者の雇用支援業務を幅広く展開しております。

中でも、職業能力開発におきましては、ポリテクセンター、ポリテクカレッジといった職業能力の開発施設を全国に設置しまして、産業基盤を支える人材の育成に取り組んでおります。

技能五輪に関しましては、全国大会や地方大会に競技委員や競技補助員などとして職業訓練指導員を派遣しているほかに、開催県に設置している当機構の施設を競技会場として全面的にご利用いただいております。

一般の技能五輪の国際大会の招致に当たりましては、さまざまな観点から全面的なご協力をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

○事務局 事務局から失礼致します。千原ジュニア委員におかれましては、次のお仕事の関係で退席されます。

なお、5分程度ですけれども、講堂の外でインタビューがかなうとのこと。千原様、お忙しい中ありがとうございました。

○千原委員 よろしく申し上げます。ありがとうございました。

○大村委員長 ありがとうございます。また名古屋に来てください。

○事務局 引き続き議事の進行よろしく申し上げます。

○宮永委員 では、経団連の宮永でございます。世界の産業構造が大きく変化していく中で、日本の産業の将来のためにも、愛知技能五輪招致を多くの方々のご支援とご協力のもとにぜひ実現させたいと思っております。積極的に招致活動を展開する中で、人材投入、また人材への投資、それから技能尊重の機運が一層高まっていき、企業の国際競争力、特に日本の多くの企業の国際協力の強化にもまたつながっていくと考えております。

また、次代を担う若手技能者の皆様に大きな目標とやりがいを持っていただくためにも、絶好の機会であり、招致レースに必ず勝ち抜けるように取り組んでまいりたいと考えておりますので、ぜひよろしくお願い申し上げます。

○山本委員 愛知県商工会議所連合会の山本でございます。かつての技能五輪の国際大会では、日本のすばらしい成績がずっと続いてきたわけでございますが、近ごろはその勢いが少し衰えたのかなと、感じているわけでございます。

日本はやはり産業立国でございますし、将来も技術立国であるべきだと思っております。こうした技能を、将来を支える若い人たち、あるいは子どもたちに、世界レベルの技能をじかに見せられるまたとない機会だと思っております。先ほど出ましたけれども、すばらしい匠の技というのが見られる国際大会を、日本のものづくりのメッカである愛知県に招致する、開催するというのは大変意義深いと思っておりますので、われわれ地元としても精いっぱい力を出していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

○小川委員代理 中部経済連合会の小川と申します。代理出席で申し訳ございません。どうぞよろしくお願い申し上げます。

まずは、各部会の活動でございますが、大変だと思いますが、大いに期待しているところでございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

おかげさまで愛知がホスト地域になるわけですが、ご承知のとおり、愛知はものづ

くりが得意で、海外に出ていくことは得意なのですが、受け入れとなると東京に比べるとまだまだ大きく見劣りがするということでございます。ですが、ホスト地域でございますので、愛知にお越しいただいた方が、愛知を喜んでいただける、日本についていい印象を持っていただけるように、しっかり愛知の中の国際化を進めていきたいと思っておりますので、ぜひとも皆様のご支援いただきますよう、よろしくどうぞお願いします。ありがとうございました。

○加藤委員 愛知経営者協会の加藤でございます。簡単にさせていただきます。技能五輪の職種はたくさんあると思っておりますけれども、人材育成というのは職種を通して共通の課題だと思います。2023年技能五輪日本開催の機会に、改めて次世代を担う若者の育成の機会として、また人材育成が重要なものと再認識する機会として役立てば何よりだと思っております。

今回の招致活動につきましては、皆様方とともに、地元産業界も挙げて取り組む所存でございますので、どうぞよろしくお願い致します。ありがとうございました。

○釜委員 中央職業能力開発協会の会長をやっております釜でございます。技能五輪国際大会、2年に一度開催されますけれども、私は、2013年のドイツ・ライプチヒ、その次のブラジル・サンパウロ、そして昨年のアラブ首長国連邦・アブダビの大会と、3回連続して日本選手団の名誉団長として参加する機会を得ました。世界各国から集まる若き精鋭たちがさまざまな職種で競技に真剣に打ち込む姿は、何度見ても実にはすがすがしく、同時に、技能というもののすばらしさ、大切さを雄弁に語ってくれていると思っております。

第4次産業革命がキーワードとなっている今日でありますけれども、今後、AI等が進化していくとしても、革新的なアイデアを具現化する上で人間の技能は不可欠であり、日本の産業の発展という観点からも、技能というものをおろそかにしてはならないと思っております。

他方、人口減少が刻々と進行する中で、ものづくり産業をはじめ、若手技能人材の確保は喫緊の課題となっております。

このような中で、国際大会を日本で開催することができれば、技能というもののすばらしさ、大切さを多くの国民が実感でき、また、次代を担う若者が夢と希望を抱き得るまたとない機会になると思っております。

2023年の本大会の愛知への招致の実現のために、当協会としても関係各位と連携して力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願い致します。

○大村委員長 皆様ありがとうございました。それでは、事務局から次回のスケジュールの案内をお願いします。

○事務局 次回第2回の開催は、WSI総会前の9月ごろの開催を予定しております。具体的な開催日程につきましては、委員の皆様と調整後、改めてご案内をさせていただきます。以上でございます。

○大村委員長 ありがとうございます。以上で、議事は終了致しました。

それでは、また皆様のお力をいただきまして、2023年の技能五輪国際大会の招致をぜひ実現をしていきたいと思っております。オリンピックで世界の若者、アスリートが競うということも素晴らしいと思っておりますが、この技能五輪国際大会で世界の若者、日本の若者が技を競う、これも素晴らしいことだと思っております。多くの日本の国民の皆さんにこのすばらしさを知っていただく機会にするためにも、ぜひオールジャパンで2023年の招致を勝ち取っていきたく思いますので、今後ともよろしく願い申し上げて、ご挨拶と致します。ありがとうございます。

(了)